

環境マネジメント

基本的な考え方・方針

オリンパスは、環境問題に対する基本的な考え方を明示し、具体的な活動につなげるために、「オリンパスグループ環境憲章」を1992年8月に制定しました。そして2015年5月には、本業を通じた社会課題の解決を強化していくことを目的に、「環境と経済の両立」に関わる内容を追加し、「オリンパスグループ環境方針」として改訂しました。

オリンパスグループでは、製品ライフサイクル全体における環境負荷低減を重要課題と位置づけており、製品、事業場、物流の改善活動に積極的に取り組んでいます。

オリンパスグループ環境方針

オリンパスグループは、経営理念に掲げている「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」をすべての活動の基本思想としています。当社はこの基本思想のもと、人々の安全・健康とそれを支える自然のいとなみを尊重し、製品・サービス、あらゆる事業活動において環境との調和と、経済を両立した取り組みを通じて、持続的発展が可能な社会と健全な環境の実現に貢献します。

1. 全員参加

従業員一人ひとりが環境活動に対する理解を深め、地域特性を考慮した環境活動に全員参加で取り組みます。

2. 環境経営の推進

グローバルでの体制と仕組みを維持し、環境活動を継続的に改善します。

3. 法規制・社会規範の遵守

環境に関する法令、ステークホルダーとの合意事項や自主基準を確実に遵守します。

4. 環境負荷の低減

汚染の予防、持続的な資源の利用、気候変動の緩和と適応、生物多様性の保護といった環境課題の解決に向けて、製品・サービス、事業活動を通じて環境負荷を削減します。

5. 環境と調和した技術の開発

環境保全に資する技術を開発し、その成果をものづくりのプロセスや製品・サービスに活かしていきます。

6. 環境コミュニケーションの重視

環境活動の社内外への情報発信を積極的に進め、ステークホルダーとの相互理解に努めます。

体制と活動

環境経営の推進体制

オリンパスでは、事業部門やグループ会社ごとに環境管理部門を設け、全社環境推進部門がグループ全体の環境経営を推進しています。環境活動の進捗は、取締役会および経営執行会議でレビューし、環境目標の達成に取り組んでいます。オリンパスは、環境経営の推進に不可欠なグローバル各拠点の環境に関する取り組みや法令遵守状況および環境関連データを効率的に収集し、グループ内で共有する情報基盤を整備し、2014年度から運用しています。

また、国内外の主要な生産拠点および物流・販売子会社ではISO14001の認証を取得し、監査などを通じて環境マネジメントシステムを継続的に改善しています。2018年6月、グループ内のすべてのISO14001認証取得事業場において、ISO14001:2015の認証更新が完了しました。また、米州のOlympus Corporation of the Americas、Olympus Surgical Technologies AmericaおよびSpiration, Inc.は、2019年度中のISO14001の新規認証取得に向けて、社内体制および環境マネジメントシステムの整備を進めています。

◎ 環境推進体制



※対象範囲は国内外連結対象会社

◎ ISO14001認証取得事業場一覧

事業場		認証取得年月	
日本	オリンパス(株)	技術開発センター(石川)	2000年3月
		技術開発センター(宇津木)	2000年3月
		技術開発センター(高倉)	2018年2月
		長野事業場(辰野)	1998年2月
		長野事業場(伊那)	2014年5月
		白河事業場	1998年10月
	オリンパスメディカルシステムズ(株)	日の出工場	1998年7月
	会津オリンパス(株)		1998年10月
	白河オリンパス(株)		1998年10月
	青森オリンパス(株)		1998年11月
オリンパスロジテックス(株)		2003年11月	
オリンパスメディカルサイエンス販売(株)		2004年3月	

事業場		認証取得年月
アジア オセアニア	Olympus (GuangZhou) Industrial Co., Ltd.	2004年10月
	Olympus Trading (Shanghai) Limited	2012年2月
	Olympus Vietnam Co.,Ltd.	2013年4月
	Olympus Australia Pty Ltd	2017年8月
欧州	Olympus Winter & Ibe GmbH	2001年5月
	KeyMed (Medical & Industrial Equipment)Ltd.	2002年3月
	KeyMed (Ireland) Ltd.	2002年3月
	Algram Group Ltd	2007年1月
米州	Medical Physics International Limited	2012年10月
	Olympus Surgical Technologies America National Service Center	2005年12月
	Olympus Scientific Solutions Americas Corp.	2010年7月
	Olympus Scientific Solutions Technologies Inc.	2010年7月
Olympus NDT Canada Inc.	2010年7月	

◎ 2018年度 主な環境活動実績

重点テーマ		目標	施策	2018年度の実績・成果	2019年度目標
環境経営の推進	環境ガバナンス体制の強化	ISO14001:2015に対応した環境マネジメントシステムへの改善と運用の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ● 改正ISO14001への対応 ● ISO14001統一認証に向けた活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル各拠点(17拠点)のISO14001:2015への移行認証完了 ● 日本国内各拠点の環境推進責任者および環境事務局の実務研修実施(16名) ● 改正ISO対応の内部環境監査リーダーおよび監査員の研修実施(78名) ● 日本国内共通の環境関連規程の整備完了 	<p>米州の地域統括会社および製造拠点(2拠点)のISO14001新規認証取得</p> <p>内部環境監査・ISO14001認証審査における指摘事項への確実な対応</p> <p>日本国内における統一環境マネジメントシステムの導入と運用の定着化</p>
	環境リスク低減活動	環境法規制対応プロセスの継続的改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 法規制対応状況の監視強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 八王子事業場(宇津木)に対する環境・安全衛生に関する現地リスク診断を実施 ● 日本国内製造拠点(7拠点)において、法対応リスクの総点検を実施 ● 製品および事業場の関連規程の維持 	<p>環境・安全衛生リスク診断の対象拠点拡大</p> <p>製品および事業場系の環境法規制対応プロセスの継続的改善</p>
製品ライフサイクルにおける環境の取り組み	製品における取り組み	オリンパスエコプロダクツの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 各製品特性に応じた環境配慮設計の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全事業分野での新規エコプロダクツ創出(新規43件、累計627件) 	<p>事業特性に応じた環境配慮製品の継続的創出</p>
	事業場における取り組み	<p>エネルギー原単位: 2020年度目標 7.73%以上改善 (対2012年度)</p> <p>水使用量原単位: 2017年度比改善</p> <p>廃棄物リサイクル率: 2017年度比改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 製造改善、省エネ、省資源、自然エネルギー導入など地域特性に応じた改善活動の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー原単位: 12.8%改善 ● 水使用量原単位:6.3%改善 ● 廃棄物リサイクル率: 前年度から横ばい 	<p>エネルギー原単位: 2018年度比改善</p> <p>水使用量原単位:2018年度比改善</p> <p>廃棄物リサイクル率:2018年度比改善</p>

制度・仕組み

環境リスクマネジメント

製品含有の化学物質、生産拠点の排水に関する法規制違反や土壌・地下水汚染は、操業停止や原状回復費用の発生、企業評価の低下など、当社の経営に影響を及ぼす重要な環境リスクです。そのためオリンパスは、法規制対応のための規程類の整備と維持、環境管理責任者や推進者への教育、現地運用状態のモニタリングと改善を実施し、オリンパスグループの環境リスクの低減に取り組んでいます。

気候変動は、異常気象の頻発、「パリ協定」に端を発した国際社会からの温暖化防止への要求強化など、事業活動に影響を及ぼす重大な環境課題の一つと認識しています。気候変動に関連した具体的なリスクと機会およびその対策は下表のとおりです。

リスクおよび機会の内容		対策
リスク	移行リスク	<ul style="list-style-type: none"> 炭素税・排出権取引や各国のCO₂削減規制の強化による事業コストの増加 エネルギー効率改善 再生可能エネルギー導入拡大
	物理的リスク	<ul style="list-style-type: none"> 台風や洪水等の自然災害規模の拡大によるサプライチェーンの断絶 サプライヤーの多様化
機会	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーからの評価 製品・サービスの設計開発段階での環境配慮設計 社会の環境課題解決に貢献する製品・サービスの開発・提供 	

また、世界的に関心の高い水リスクについては、主要な開発・生産拠点に対して世界資源研究所(WRI)の水リスクの評価ツール(Aqueduct)や防災マップ等を使用し、「物理的な水ストレス」「水資源に関する法規制リスク」等の評価を行い、水リスクが著しく高い地域に立地する拠点がなことを確認しております。当社の事業活動に与える影響は小さいものの、水が豊富な場所への事業拠点の設置、事業活動における水使用量の削減、排水設備の管理者の設置ならびに定期的な排水測定などを実施しています。

◎ 環境法規制の遵守状況(2018年度)

2018年度は、環境関連の法令違反・事故はありませんでした(比較的軽微なものを除く)。また、訴訟・罰金・科料の発生もありません。

生物多様性保全

生物多様性の損失は、地球環境や私たちの暮らしに深刻な影響をもたらすと懸念されています。

オリンパスグループは、各事業場における水使用・排水の管理、緑地の維持管理をはじめ、事業場周辺での清掃活動や森林保全活動などを通じて、生物多様性の保全に取り組んでいます。

グリーン調達

オリンパスは、2001年に「オリンパスグループグリーン調達基準」を発行しました。グリーン調達基準は、Webサイトにも掲載し、すべてのサプライヤーさまにオリンパスグループの環境活動に対する考え方を説明しています。

また、継続的に取引のある国内外の主要なサプライヤーさまを対象に毎年1回実施している企業調査において、ISO14001認証の取得状況や、CO₂削減、廃棄物削減、化学物質対策の状況などを確認し、サプライヤーさまとともに環境活動レベルの向上を図っています。

オリンパスグループグリーン調達基準

<https://www.olympus.co.jp/csr/effort/involvement.html>

環境教育・意識啓発

オリンパスは、「オリンパスグループ環境方針」に基づき全員参加の環境活動を進めていくために、「グローバル環境フォトコンテスト」をはじめとする環境月間の取り組みなどを通じて環境意識の啓発に取り組んでいます。

また、環境法規制対応やISO14001内部監査など、担当機能に応じた教育を国内外の各事業場で実施しています。

グローバル環境フォトコンテスト

<https://www.olympus.co.jp/csr/effort/education/2018.html>

◎ 主な環境教育の実施状況(国内オリンパスグループ・2018年度)

対象者	目的・内容	受講者数
環境管理責任者	事業場に対する環境法規制の改訂内容および対応・運用方針の周知。 ISO14001:2015要求事項の理解	2名
事業場環境事務局	環境実務担当者のスキルアップ研修 (環境マネジメントシステムの実効性を向上するためのポイント理解・ 討議など)	14名
環境監査リーダー	内部監査のスキルアップ研修 (監査指摘や改善提案のポイント理解、監査ロールプレイなど)	18名
環境監査員	ISO14001にもとづく監査研修 (ISO14001:2015要求事項の理解、監査体験など)	60名